

# インパルス応答による木造芝居小屋の音場評価

## －その2 主感調査－

寺尾研究室 200502679 松山由佳

**研究概要:** 現在全国に17か所ほどしか残されていない木造芝居小屋の音響インパルス応答の測定を行い、それを用いて仮想現実音を作成し音場評価を行った。そこで主感アンケート調査を行い邦楽に好ましい音響空間の検討を行った。

**研究目的:** ダミーヘッドを用いて測定したインパルス応答から仮想現実音を作成しシミュレーションを行った。邦楽の演奏が行われてきた木造芝居小屋と、クラシック音楽の演奏などの演奏が行われているその他の劇場(多目的ホール等)との比較を行い、邦楽に好ましい空間について聴感アンケートを行い検討を行った。

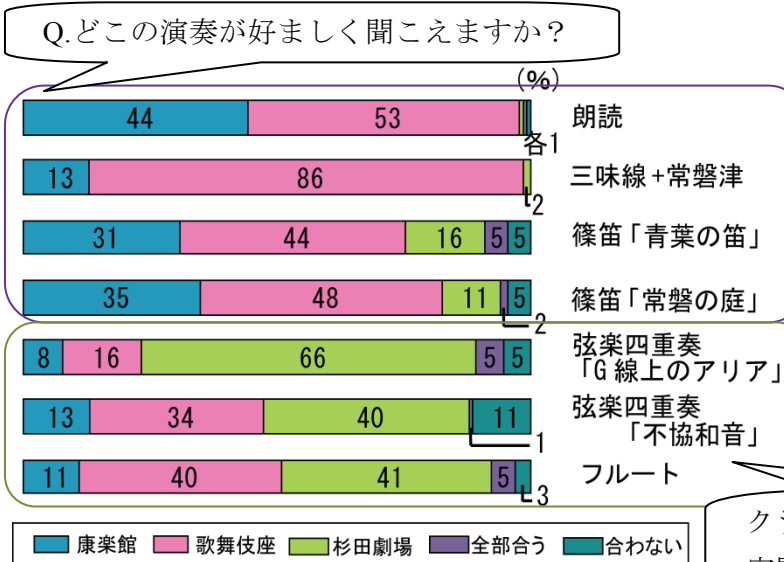
**研究対象(木造芝居小屋):** **康楽館** 村国座、旧広瀬座、ながめ余興場、相生座、呉服座

**比較対象(多目的ホール等):** **東京歌舞伎座(歌舞伎専用劇場)**

**杉田劇場(昨年測定)** 鹿角市交流プラザ、横浜ふね劇場、つくば市古民家

**アンケート被験者:** 本校吹奏楽部・管弦楽部・ビッグバンド部の方々、建築事務所の方、邦楽演奏者、舞台関係者の方 合計 125名

### 聴感アンケート結果



測定風景(村国座)



測定風景(歌舞伎座)

撮影：カメラマン永石氏

邦楽に好ましい音響空間は残響時間が短く明瞭性の高い康楽館や歌舞伎座である

クラシック音楽は残響時間が長く響きのある空間(杉田劇場)が好ましい。

**研究成果:** 聴感アンケートの結果、楽器ごとの好ましい空間がわかった。今後は管楽器を加えて検討することが課題である。また今回インパルス応答の測定は行ったがアンケート実施に至らなかった芝居小屋のアンケート調査を行うことも必要である。

**感想:** 芝居小屋の測定は時間内に確実にを行う必要があるのでミスの無いよう注意しました。ご指導いただいた先生方、研究に協力していただいた皆様には心より感謝いたします。